

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 71.7%, 県 66.9%)

対県比 107%

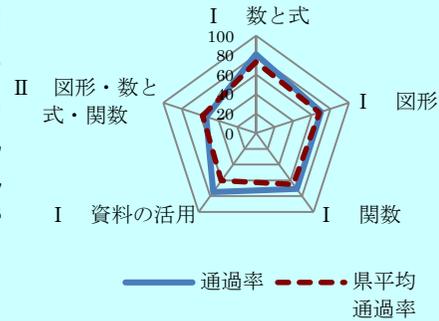
学力定着実態調査 本年度正答率

本校 66.6%
全国 68.3%
対全国比 97.5%

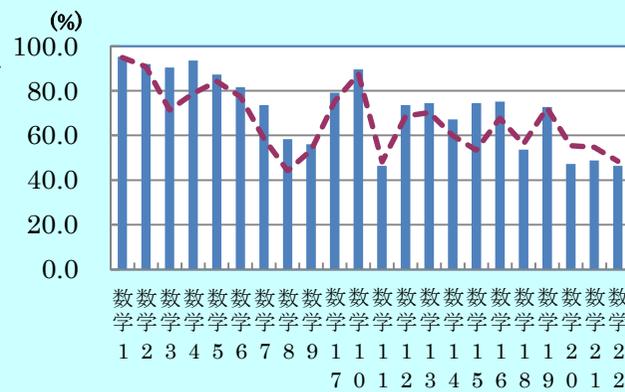
本年度の結果について

○数学の結果において、タイプⅠは76.9%、タイプⅡは53.8%の通過率となっている。この結果から、基礎的・基本的な内容については定着が図れていると考えられるが、一方でタイプⅡの「事象の解釈と表現」「事象の数学的な解釈」については、県平均をそれぞれ8.2、5.9ポイント下回った。
○昨年度は、「文字式の表し方」に課題が見られた。そこで、図や具体的な数字を用いることで理解を促したり、検算の仕方も丁寧に指導したりした。その結果、通過率が昨年度より30.1ポイント向上した。

領域別平均通過率



数学科平均通過率 (%)



全国学力・学習状況調査 本年度正答率

A問題	B問題
本校 54 %	本校 40 %
全国 64.6 %	全国 48.1 %
県 64 %	県 48 %

来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比 108%

重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】(11)(2)「事象の解釈と表現」《47.2% (県平均 55.4%)》

「正しいものを選び、それが正しいこと理由を、与えられた式をもとに説明にする問題」に対して、正しいものは選んでも、与えられた式を用いて説明できていない誤答が24.0%と高かった。与えられた条件をもとに論理的に考えて表現する力に課題がある。

【課題2】(12)(1)「事象の数学的な解釈」《48.8% (県平均 54.7%)》

「式 ($y = x/1.5$) を見て、 x と y の間にある関係を記号で選ぶ問題」に対して、反比例と答えた生徒が25.6%、比例でも反比例でもないと答えた生徒が24.0%であった。文字式の理解に課題がある。

全国学力・学習状況調査

【課題1】(A9)《14.3% (県平均 21.9%)》

長方形の縦の長さや面積の関係を、「...は...の関数である」という形で表現することができていない。関数の意味の理解に課題がある。

【課題2】(B1)(2)《6.3% (県平均 13.7%)》

2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することができていない。回転移動に必要な条件の理解に課題がある。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】目標値 (60%) 実施後数値 (%)

与えられた条件に下線を引き、最初に条件を確認するとともに、解いた後にもう一度条件を確認する習慣をつける。線分図を用いて等式の関係を表すなど、理解しやすくなるような視覚的な支援をする。ペアで説明し合う場を設定するなど、表現する機会を増やす。

【課題2】目標値 (70%) 実施後数値 (%)

x と y の関係を理解するために、式だけでなく表やグラフも利用し、複数の視点から関係を捉えさせる。 $y = x/2$ と $y = 2/x$ を比較させ、その違いと、 $y = x/2$ は $y = 1/2 \times x$ に式変形できるので比例であるということを理解させる。また、 $xy = 3$, $y = 2x + 1$ など、色々な式も取り上げ、それをどんな関数が判断させ、関数の種類を整理し意味の理解を深めさせる。

全国学力・学習状況調査

【課題1】目標値 (50%) 実施後数値 (%)

縦の長さを決めると面積がただ1つに決まることを確認し、「面積は縦の長さの関数である」という形で表現する活動を取り入れたり、一方の値が決まっても他方の値がただ1つに決まらないような関係も取り上げ、関数の意味の理解を深めたりする指導を行う。

【課題2】目標値 (50%) 実施後数値 (%)

回転移動には、「回転の中心の位置」「回転の向き」「回転角の大きさ」が必要であることを、条件不足の移動の条件で書かせる体験をさせるなど、その必要性を実感させる指導を行う。

※今後の改善計画については別紙